

4 塘沽停戰協定善後交渉

409 昭和10年1月15日 在満州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

満州国国名等使用郵便物の不受理措置を中国側実施に対し高橋武官補佐官を通じて是正方申入れについて

新 京 1月15日後発
本 省 1月15日後着

*第二五號

十日實施ノ滿支通郵問題ニ關シ

一、其ノ後各方面ヨリノ情報ニ依レハ支那側郵便局ニ於テハ「滿洲國」「新京」等ノ地名ヲ冠シタル郵便物ヲ受理セサルノミナラス公文ヲ以テ其ノ旨布告シタル趣ナル處滿洲國ニ於テハ最早「長春」等ノ如キ舊名ヲ使用シ居ラス最近ノ省制改革ニ依リ各種新地名ヲ生シ右支那側ノ措置ハ實際ニ即セサルモノニシテ支那領土内ニ於ケル發信人ノ不便鮮カラス支那側ハ單ニ通郵ノ名目ノミヲ與ヘ其ノ實行ヲ阻止セントスルモノナルニ鑑ミ關東軍ニ於テハ當方

在中華民國日本公使館

大使館參事官 若杉 要

外務大臣 廣田 弘毅殿

滿支間電信電話通信開始ニ關スル件

滿洲電信電話株式會社理事前田直造ハ市橋良治ヲ帶道シ一月九日來館シ滿支間電信電話通信開始ノ件ニ關スル支那側トノ交渉振ニ關シ館員ニ語ル所アリタルカ其ノ要旨左ノ如シ

滿側ニ於テハ通郵問題解決後成ルヘク速ニ滿支間ノ電信電話ノ通信ヲ開始シ度キ意嚮ニテ右兩名ハ在山海關關東軍特務機關儀俄大佐同伴天津ニ赴キ殷同ニ本件通信至急開始交渉セル處殷同ハ本件通信開始ハ通郵實施後トノ了解ナレハ通郵ノ完全ナル實施期日タル二月一日以後ニ於テ之ヲ爲シ度キ考ナルモ特ニ電話ニ關シテハ交通部經營ノモノノミナラス省經營ノモノモアリ種々困難ヲ伴フヲ以テ之カ急速實施ハ出來サルヘキ旨述ヘタルニ對シ前記前田理事ハ電話ト雖モ新ナル施設ヲ爲ス次第ニアラスシテ從來存在セシモノヲ復活スルニ止ルヲ以テ左シテ困難無カルヘキニ付至急電線破損個所ヲ調査シ之カ復舊ニ着手セラレ度ク若シ支那側

三 華北問題

ト協議ノ上十三日北平武官ニ對シ至急右布告ヲ取消シ通郵ノ本旨ヲ徹底セシムル様嚴重抗議ヲ希望スル旨電報セリ

一、一方北平武官ヨリ軍司令部ニ達シタル電報ニ依レハ同武官ヨリ既ニ二十二日殷同ニ對シ本件支那側取扱ハ通郵申合ノ精神ニ違反スル旨ヲ注意シタル處黃郭ヨリ谷正倫ニ對シ善後策考究セシメ居ルヲ以テ近ク解決スヘシト答ヘタル趣ナリ

編 注 通郵問題に關する交渉経緯については、『日本外交文書』昭和期Ⅱ第一部第三卷第254文書付記を参照。

410 昭和10年1月15日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛

通電(中国・満洲国間電信電話連絡)問題に關シ儀我山海關特務機關長と殷同を中心に協議開始について

*機密第二一號 (接受日不明)

昭和十年一月十五日

ニ於テ復舊出來サルニ於テハ滿洲國側ニ於テ右復舊又ハ新設ヲ爲スモ可ナル旨述ヘタル處殷同ハ單ニ復舊新設等ハ支那側ニ於テ爲スヘシト答ヘタルノミナリシカ兎ニ角一應黃郭ノ意見ヲ求ムルコトトナリ本月八日殷同及前記三名共ニ來平シ殷同ハ黃郭ト會談シタル結果ナリトシテ前田ニ對シ黃郭ハ電信ニ關シテハ大体二月一日ヲ以テ之ヲ開始スルコトニ異存ナキモ確實ナルコトハ其南下後中央ト話合ヒタル後決定スルコトトナルヘク唯電話ニ關シテハ依然困難ナルヘシトノ意嚮ヲ漏シ居タル旨語リタル趣ナリ右何等御參考迄報告申進ス

411 昭和10年1月19日 在満州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

満州国国名等使用郵便物の不受理措置に關する黃郭の解決案について

新 京 1月19日後発
本 省 1月19日後着

*第四二號

往電第二五號ニ關シ

一、十四日北平補佐官ヨリ政務整理委員會ニ對シ速ニ布告ヲ取消シ通郵ノ徹底ヲ期スル様要求シタル處十五日黃郛ヨリ布告ノ取消ハ實行困難ナルカ郵政總局ヨリ本布告ハ對內治安ノ必要ヨリ出テタルモノニシテ民衆ノ通信殊ニ外境ニ對スル通信ヲ阻止スル意味ニアサル旨ノ聲明ヲ發シ以テ通郵ノ本旨ニ副ハシムルコトトシ度キ旨回答シ越セル趣ナリ

二、右ニ對シ關東軍ヨリ十六日當方ト協議ノ上北平補佐官ニ對シ(イ)滿洲國內行政區劃ノ變更ニ伴ヒ近キ將來ニ於テ舊地名ヲ冠スル郵便物ハ配達不可能ニ陷ルヘク(ロ)外境ノ通信ヲ寬大ニ取扱フト稱スルモ日本人ノ郵便物ヲ區別スルコト困難ナル場合鮮カラサルノミナラス通郵ハ本來日本人ノ爲便ヲ計ルニアラスシテ滿支兩國國民ノ福利ヲ企圖シタルモノナルカ確認スルヲ要スルコト等ノ理由ニ基キ我方トシテハ主義上布告文末尾ノ取消ヲ要求スル次第ナルモ實際上ノ見地ヨリ新地名ヲ冠シタル郵便物カ確實ニ到着スルコトニ付充分ナル保障ヲ得セシメ且排日的布告文ノ公布ニ付支那側ノ陳謝ヲ要求スヘキモノト信ストノ趣旨ノ同電ヲ發セリ

政總局ヨリ別電要旨ノ通告ヲ發スルト共ニ內規ニ於テ親地名記載ノ郵便物モ之ヲ受理シ郵局ニ於テ滿洲國ノ字ハ之ヲ塗抹シ其ノ他ノ新地名ハ舊地名ヲ併記スルコトナリタル趣ナル處二十二日關東軍ヨリ北平補佐官ニ對シ右通告文ニハ異存ナキモ內規ニ於テ滿洲國ノ文字ヲ塗抹スルカ如キ處置ニハ同意スル能ハス又舊地名ヲ併記スルカ如キ小細工ヲナスハ甚タ遺憾ナル旨電報セル趣ナリ

(別電)

新 京 1月23日後発
本 省 1月23日後着

第五二號

通郵ニ關シテハ既ニ關内外民衆ノ便利ヲ計ル爲本月十日通告シタルカ久シク郵便ヲ中止シアリタル爲通郵開始ニ當リ混雜セシハ已ムヲ得サル所ナリ
然レトモ民衆便利ノ爲關内外人民ノ通信ヲ延滞シ又ハ外境ノ通信ヲ阻害スルカ如キ意思ハ當然ナシ以後ハ將ニ努メテ迅速ニシ以テ通郵ノ圓滑ヲ期シ郵遞ヲ重ンスヘシ

三、尙十七日軍中央部ヨリ關東軍ニ對シ新地名記載ノ郵便物ヲ受付ケサルカ如キハ通郵申合ノ精神ヲ破壞スル不信任爲ニシテ黃郛ノ解釋的聲明案ニテハ支那側ノ企圖ヲ抑ヘ難キヤニ思料セラルルモ布告文ノ取消困難ナル場合ニ於テハ少クトモ事實上布告文ヲ空文ニ歸セシムルコトヲ目當トシテ今後ノ交渉ニ當ラレ度キ旨電報シ越セリ

412 昭和10年1月23日 在滿州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿州国名等使用郵便物の不受理問題に關シ
中国側が是正措置実施について

別 電 一月二十三日發在滿州国南大使より広田外務

大臣宛第五二號

通郵円滑に關する中国郵政總局の通告要旨

新 京 1月23日後発
本 省 1月23日後着

第五一號

往電第四三號ニ關シ

二十一日北平補佐官ヨリ關東軍ニ達シタル電報ニ依レハ郵

413 昭和10年2月5日 在滿州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

小包および為替の通郵状況に關する山海關特務機關の報告について

新 京 2月5日後発
本 省 2月5日後着

第九八號

滿支特殊郵便(小包、爲替)通郵ハ二月一日ヨリ開始セラレタル處右通郵狀況ニ關シ山海關特務機關ヨリ當地軍ヘノ入電ニ依レハ

(一)滿側ハ支行小包爲替處理ノ爲山海關ニ一機關(南綏中局山海關分室)ヲ設ク

(二)小包ハ一日ハ支行一袋ニ止マリタルモ二日ハ相互約二十ニ達シ以後漸増ノ狀況ニアリ

(三)爲替ハ一日支行一萬ニ日以後逐次増加シツツアルモ目下舊正月ノ爲未タ完全ナル利用ヲ見ス

(四)普通特殊兩郵便トモ實施數日前ヨリ滿支郵政専門家會議ヲ開キ打合ヲ爲シ局地ニ於ケル兩者間ノ感情極メテ良好圓滿ニ聯絡シツツアリ

昭和10年2月8日

在滿州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

華北航空連絡問題に関する関東軍の交渉要領 案について

別電 二月八日発在滿州国南大使より広田外務大臣

宛第二二一号

右交渉要領案

新 京 2月8日後発
本 省 2月8日後着

第一二〇號(極秘)

関東軍交通監督部島田航空兵中佐ハ客年十二月二十九日三十日ノ兩日ニ亘リ柴山武官立會ノ下ニ殷同ト會見シ華北航空問題ニ關シ意見ヲ交換シタルカ其ノ際殷同ハ本問題ノ解決ニ關シテハ原則的ニハ同意シ居レルモ國內の二煩ハシキ事情アルヲ以テ先ツ世間ヲ「カムフラージ」シ得ルカ如キ方法ヲ以テ實行ニ入り適當ノ時期ニ合辦會社ヲ組織スルコト適當ナルヘキ旨ノ意見ヲ開陳シタル趣ナルカ関東軍ニ於テハ前記會談ノ模様ニ鑑ミ成ルヘク速ニ具體的交渉ヲ開始スル目的ヲ以テ交渉要領案ヲ練リ居リタル處最近大要別電

第一二一號ノ如キ成案ヲ得中央ニ具申スルト共ニ成ルヘク早キ機會ニ於テ軍代表者ヲ華北ニ派シ交渉ヲ開始スル豫定ナル趣ヲ以テ當方ニ對シ外務省側ニ於テモ本件交渉成立ノ爲援助セラレ度キ旨申出ノ次第アリタリ
本電別電ト共ニ支、北平、天津、南京へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

(別電)

新 京 2月8日後発
本 省 2月9日前着

第一二一號(極秘)

(一)交渉ハ華北政權提議ノ機ヲ捉ヘ速ニ開始シ先ツ滿洲及日本ヨリ無條件乗入レヲ提議シ一應強硬ニ主張シタル上若シ不成功ノ場合ハ合辦會社(華北航空公司)案ニ依リ合辦會社ニ關スル協定成立ノ上ハ狀況ニ依リ不取敢滿洲航空會社ヨリ必要ノ人員機械ヲ北平ニ派遣シ戰區整理委員會ノ名義ヲ以テ戰區内ノ聯絡及北平承德並ニ北平天津山海關等ノ聯絡ヲ實施ス

(二)華北航空公司設立要旨左ノ通

一、華北航空公司ハ主トシテ北支ニ於ケル旅客郵便貨物ノ輸送及之ニ附帶スル事業ヲ營ムヲ以テ目的トシ支那人タル日支合辦ノ株式會社トス

二、本會社設立ノ爲名ハ適當ナル日本側機關ヲ名義人トシ支那政權ト契約シ又ハ支那側財團ト合同セシム但シ日本側出資ハ日本側名義人ヲ通シ滿洲航空株式會社ヲシテ行ハシム之カ爲同會社ハ所要ノ増資ヲ行フモノトス

三、日本側名義人ト航空會社間ニハ本契約實施ニ必要ナル内部取極ヲ行フモノトス

四、本公司ノ資本ニ對シ日支同數ノ株ヲ所有ス

支那側ハ飛行機其ノ他ノ施設ヲ現物出資トシ殘額ハ現金出資トス其ノ調査ニ關シテハ日本側ニ於テ考慮斡旋ス但シ支那側出資者カ政府以外ノ財團ナルトキハ政府側ハ飛行場其ノ他之ニ利用シ得ヘキモノヲ無償使用セシム

五、本公司ノ經營スヘキ航空路ハ左ノ如シ

- 一、承德、北平
- 一、大連、青島
- 一、大連、山海關、天津、北平
- 一、天津、濟南、青島

選ス

415 昭和10年2月11日 在天津川越総領事より
広田外務大臣宛(電報)

通電に関する協定の大概確定について

天津 2月11日午後発
本省 2月12日午前着
第二八號*

本十一日當地ニ於テ滿支通電ニ關シ双方委員ノ間ニ左記大綱ノ協定ヲ了セリ

- 一、通電ハ概シテ通郵ニ關スル協定ニ準據スルコト
- 二、支那全國ニ通電ヲ實施スルコト
- 三、双方電信ハ總テ天津ニ於テ仲繼スルコト
- 四、電信線ハ現在ノモノニテ足ルヲ以テ差當リ増線セサルコト

五、電信事務ニ關スル用語ハ英語トス

尙主トシテ滿側ヨリ提案ニ係ル(イ)滿支間和文電信聯絡ヲ全支(少クモ北支)ニ實施スルコト(ロ)料金算定問題(ハ)無電通信ハ現行ノ天津哈爾賓間以外ニ芝罘及上海ノ無電臺ヲモ使用

スルコト等ノ諸事項ニ付テハ支那側委員ニ於テ南京ニ請訓ヲ要スル關係上協定ニ至ラス右ハ追テ支那側委員ト電信會社代表トノ間ニ協定スルコトトシ今回當地ニ會合セル滿側委員ハ今明日中ニ引揚クル等ナリ

本月五日以來山海關ニ於テ電線ヲ接續シ事實上通電ハ實施セラレ居ルモ前記協定ニ依ル實施期ハ(イ)(ロ)(ハ)等ノ事項ノ協定後トナル趣ナリ

416 昭和10年2月20日 在天津川越総領事より
広田外務大臣宛

塘沽停戰協定区域内の諸問題に関する第四回

日中關係者會議の討議状況について

機密第一四二號* (接受日不明)

昭和十年二月二十日

在天津

總領事 川越 茂

外務大臣 廣田 弘毅殿

非戰地域諸問題討議ノ爲メ日支關係者第四回會議ノ件
本件第三回會議ニ關シテハ曩ニ客年七月十八日附機密第六

七七號ヲ以テ報告シ置キタル處本月十三日北平ニ開催セル
第四回會議ニ關シ別添ノ通り報告ス

非戰地域諸問題ニ關スル日支關係者會議(第四回)

月 日 昭和十年二月十三日

場 所 北平北寧鐵路局長殷同宅

出席者 日本側

山海關特務機關	儀我 大佐
北平公使館附武官	高橋 少佐
支那駐屯軍參謀	大木 少佐
在天津總領事館	田中 領事

支那側

北寧鐵路局長	殷 同
灤榆區行政督察專員	陶 尙銘
薊密區行政督察專員	殷 汝耕
北平軍事分會科長	朱 式勤

以上支那側出席者ハ何レモ戰區政務整理委員會委員ニシテ
今回ノ會議ハ殷同之ヲ主宰ス

議 案

一、馬蘭峪(東陵)接收問題

二、戰區內浮浪者取締

三、戰區特種保安隊ノ入替

四、大東公司

五、戰區整理委員會ノ存續問題

六、國境ヲ利用スル匪賊並ニ不良份子ニ對スル共助的措施

一、馬蘭峪(東陵)接收問題

馬蘭峪接收ハ同地郊外ニ於ケル東陵ノ接收ヲ主眼トシ同地ニハ關東軍第七師^(一)所屬ノ守備隊一ケ中隊、滿洲國軍一ケ大隊駐屯シ居リ後者ハ單ニ東陵ノ保護ノ名義ナルモ實際ハ一ケ中隊東陵內ニ駐屯シ直接其ノ保護ニ任シ居ルモ殘餘二ケ中隊ハ東陵外ニ駐屯シ滿洲國勢力進出ノ一表象ト見做サレ從來支那側ニ於テ東陵接收ニ重キヲ置ケルモ畢竟之ニ依リ滿洲國軍ノ撤退ヲ企圖セル爲メニテ從來在北平柴山武官ト殷汝耕トノ間ニ主トシテ交渉ヲ繼續シ已ニ昨夏接收ノ前提トシテ殷汝耕ヨリ柴山武官ニ對シ同地方ノ治安維持ニ付支那側ニ於テ全責任ヲ負フ旨ノ一札ヲ入レ尙ホ支那側ハ東陵ノ修理費トシテ銀一萬二千元ヲ支出スル事トシ接收前ニ修理ヲ加フル筈ナリシカ接收期確定セサル爲メ修理ニ着手ス

ルニ至ラスシテ今日ニ及ヘル次第ナル處今回ノ會議ニ於テ支那側ハ右接收促進方ヲ希望シ日本側ノ意向ヲ承知シ度キ旨ヲ申出テ右ニ對シ主トシテ儀我大佐ヨリ同地ノ引繼ハ地方治安維持ノ機能完備ヲ先決條件トシ支那側ハ前記ノ如ク文書ヲ以テ治安維持ニ付全責任ヲ負フ旨誓約スト雖モ同地ハ滿洲國皇室ニ於テ多大ノ關心ヲ有スル關係アルニモ顧ミ治安維持ノ機能完備ノ事實ヲ認メ得ルニ非サレハ輕々數ク引繼クヲ得ス畢竟後ニ協議セラルル非戰地域全般ノ治安維持ノ機能確立シ引テ馬蘭峪地方ノ治安モ維持セラルル見込立チタル後引繼カルヘキモノニテ引繼條件モ特ニ東陵保護機關設置ノ外概シテ山海關及古北口ノ各引繼條件ニ準據シテ之ヲ作り度シ元來關東軍ヲ代表シ本件ヲ擔任セル柴山中佐他ニ轉シ後任高橋少佐ハ關東軍ヨリ本件接收ニ關シ未タ何等依囑ヲ受ケ居ラス差當リ責任者ナキヲ以テ最近高橋少佐新京ニ赴ク筈ニ付其際關東軍ヨリ本件依囑ヲ受ケ次第柴山中佐ノ後ヲ繼ギ同地接收事務ニ當ル事ト爲ルヘク引繼條件ノ協定等モ其ノ上ノ事トナルヘキ旨應酬シ尙ホ關東軍側トシテハ非戰地域ニ關シ地方治安事項ハ在承德第七師之ヲ主管シ全般の接收事項ハ儀我大佐ニ於テ又タ馬蘭峪接收

ノ分ハ從來柴山中佐ニ於テ夫々擔任シ居ル處目下柴山中佐擔任ノ分其交迭ノ爲メ停頓シ居ル次第ナリト釋明ヲ加ヘ支那側ハ之ヲ納得シ尙ホ出來得ル限りノ促進方ヲ要望セリ(馬蘭峪接收ニ付テハ客年七月十八日附機密第六七七號報告第三回會議參照)

二、戰區內浮浪者取締

本項ハ支那側ヨリ提出セル問題ナル處浮浪者中(イ)支那側浮浪者ハ灤榆區及薊密區兩督察專員ニ於テ之カ取締ニ任シ尙ホ個々ノ浮浪者以外ニ集團ト爲レル民團ノ整理モ一重要問題ニシテ民團ハ自治的ニ地方治安維持ニ任シ乍ラ往々ニシテ其立場ヲ利用シ官民間ニ介在シテ橫暴ヲ極メ居ルハ周知ノ事實ナルヲ以テ之カ弊害ヲ防止シ其機能ヲ發揮セシムル爲メニハ各縣民團ヲ整理シ編成ヲ明ニシ殊ニ其所持ノ銃器ヲ各縣ニ於テ登錄セシメ小銃以外ノ輕機關銃、重機關銃及自動小銃ノ如キ自動火器ハ一切所持セシメサル事トシ尙ホ各縣ノ民團編成ハ豐潤縣ノ編成ニ倣フ事トセリ目下各縣ニ於ケル民團所持ノ小銃ハ非戰地域カ從來反覆セラレシ支那內亂ノ巷ト爲リ其都度散出セラレシ數非常ニ多ク其結果縣ニ依リテハ一萬乃至二萬ニ達スルモノアリ之ヲ使用スル民

團ハ各地共相當ノ武力ヲ構成シ地方治安ヲ維持スルヨリモ寧ロ之ヲ攪亂シ居タル實狀ニテ關東軍側ニ於テモ目下之カ支那側ノ整理ニ付多大ノ關心ヲ抱キ居ル次第ナリ(ロ)日本側浪人トシテハ概シテ奧地ニ侵入シ賭博又ハ禁制品販賣ヲ主トシ間々日本側威力ニ乘シ支那官民ニ對シ橫暴ニ振舞テ憚ラサル不良份子アリ之カ取締方法トシテ客年來當館ト兩督察專員トノ間ニ協議中ノ證明書發給制度(客年八月十七日附機密第七四九號參照)ヲ成ルヘク速カニ實施スルノ要アリト認メラルル次第ナル處右ハ兩督察專員ニ於テ當館提出ノ方法ニ對シ承諾ノ回答アリ次第實施ノ運ニ至ルモノナルニ付兩專員ハ速ニ右回答ヲ發セラレ度キ旨日本側ヨリ要求シ支那側ニ於テハ二月二十日頃迄ニハ相違ナク回答ヲ發シ得ル見込ナリトノ事ニ付當館ニ於テハ他ニ格別ノ支障生セサル限り其一ヶ月後ニハ實施スヘキ旨ヲ答ヘ置ケリ

三、戰區特種保安隊ノ入替

戰區特種保安隊ノ整理問題ハ同地域ニ於ケル日支間ノ重要問題ニシテ是迄ノ會議ニ於テ每次協議ヲ重ネツツアリシカ諸種ノ事情ノ爲メ促進困難ニシテ今回ノ會議ニ於テモ主タル議題ト爲レリ同保安隊ノ現狀ハ第三回會議報告(客年七

月十八日附機密第六七七號)ニ詳細記述シ置キタル通りニシテ其後之カ整理ニ關シテ日支關係者隨時非公式ニ寄々協議ヲ重ネシ結果今回ノ會議ニ於テ大体ノ方針ヲ決定スルヲ得タルモノニテ其內容左ノ如シ
第三回會議報告ト重複スルモ順序トシテ保安隊現狀ヲ再録スル事トス

A、日本側ト關係アルカ如ク傳ヘラルルモノ

第一總隊 灤州ヲ中心トシ兵力約二千

統卒者 劉佐周

第二總隊 唐山ヲ中心トシ兵力約二千

統卒者、趙雷

以上舊李際春ノ部隊ヲ改編セルモノ

補充隊 玉田ヲ中心トシ兵力一千二百

統卒者、韓則信

以上舊石友三ノ部隊ヲ改編セルモノ

B、日本側ト全然關係ナキモノ

支那軍隊ヲ停戰協定後保安隊ニ改メテ駐在セシメ居ルモノニテ元來ハ匪軍ヲ軍隊ニ改編セシモノニテ其ノ質不良ナリ合計五千六百ヲ左ノ三隊ニ分ツ

第一總隊 昌黎ヲ中心トシ兵力約一千六百

統卒者、楊玉成

第二總隊 順義ヲ中心トシ兵力約二千

統卒者、范景華(舊魏永和)

第三總隊 撫寧ヲ中心トシ兵力約二千

統卒者、周毓英

C、未タ配置ニ付カサルモノ

于學忠ニ於テ前項Bノ保安隊ト入レ替ラシムル豫定ヲ以テ特ニ訓練ヲ加ヘシモノニテ其數約九千(有武器五千、豫備四千)左ノ二隊ニ分ツ

第一隊 統卒者 張硯田

第二隊 統卒者 張慶餘

元來關東軍ト支那側トノ間ニ保安隊整理ニ付會議困難ナリシ主ナル點ハ關東軍側ハ戰區保安隊總數九千ヲ限度トシ前記Aノ部隊(五千二百)ハ其儘ナルヲ以テ差引四千ノ外ハCノ保安隊ヲ入ルル事ヲ認メス支那側ハAノ部隊以外ニ九千ヲ入ルル事ヲ主張シ其相違五千アリシ爲メナルカ今回ノ會議ニ於テCノ保安隊九千ノ内五千ハB隊ト入レ替ラシメ殘四千ハ公安局ニ入レ服務セシムル事但シ公安局ノ現狀ハ人

テ概シテ素質不良内部不統一ニテ從來絶ヘス民團等ト衝突シツツアリシモノナリ曾テ支那側ニ於テハ之ヲ戰區外ニ移サム事ヲ希望シ關東軍モ一度之ヲ承諾セシ事アルモ實際問題トシテ斯カル集團ヲ戰區外ニ移サムトセハ同部隊ハ支那側ヨリ最モ警戒セラレ居ルヲ知悉セル爲メ自ラ其ノ將來ニ不安ヲ感シ如何ナル事体ヲ惹起スルヤモ知レサルヲ以テ之ヲ比較的善良ナル部分ト然ラサル部分トニ分チ前者ハ戰區内通州附近燕郊鎮ニ後者ハ戰區内開平ニ移駐スル事ト爲レリ右ハ均シク戰區ニ置キテ彼等ニ安心セシムル一方之ヲ分チテ力ヲ弱メ比較的優勢ナル良質保安隊駐屯地附近ニ移シ絶ヘス之ヲ監視セシムルノ方案ニテ之カ實施ハ成ルヘク早キヲ要スルモ同隊移駐後直ニ其仇怨關係アル民團整理ヲ行フ筈ナルニ付民團整理案成立ヲ待ツテ右移駐ヲ行フ豫定ナルカ何レニスルモ他ノ保安隊入替前ニ之ヲ行フ筈ナリ玉田保安隊々々長ハ死亡シ缺員ナルカ新ニ李允ナルモノヲ隊長ニ任シ之ヲシテ移駐ヲ行ハシムル由ナリ

(四)前記B保安隊ヲ戰區外ニ移シC保安隊中五千ヲ以テ入リ替ラシムル分ハ今後約一ヶ月間ニ移駐ヲ了スル豫定ニテ

員充實セサルモ小銃ハ人員以上備付ケアルヲ以テ徒手ニテ入レルコトニ双方ノ了解成立セリ關東軍側ニ於テハ當初ヨリ戰區治安維持ニハ保安隊一萬民團及公安局一萬ヲ以テ充分ナリト認メ居リ此ノ見地ヨリ保安隊總數ヲ前記ノ如クA五千C五千計一萬トセル次第ナリ而シテ支那側ニ於テハ公安局ハ小銃ノミニテ足ルモ保安隊ハ戰區治安維持ノ中心勢力ニシテ非法民團ノ整理肅清ノ任務ヲ有シ一方同地域内ニ出沒スル匪軍ハ往々自動火器ヲ所持スルモノモアルヲ以テ保安隊モ相當裝備ヲ要スル爲メ是非新ニ入ルC保安隊五千人ニ對シ機關銃百挺所持ヲ認メラレ度シト申出テ日本側ハ此種自動火器ハ出來得ル限り少クスルヲ要ス意見ニテ結局右五千人ニ對シ輕機關銃五十挺ヲ(重機關銃ヲ嚴禁シ)限度トシテ之ヲ認メ且ツ右ハ非法民團等整理ノ任務アルカ故ニ特ニ自動火器ヲ許ス旨ヲ于學忠ヨリ日本側ニ對シ聲明スル事ヲ條件トシ又タ右自動火器ハ戰區ニ入ル前ニ日本側ノ檢閱ヲ受クヘキ事トセリ

而シテ其後ニ於ケル保安隊入替實施ニ關シ左ノ通り取極メタリ

(四)玉田ニ於ケル現保安隊ハ前記ノ如ク舊石友三ノ部隊ニシ

移駐案ハ出來次第支那側ヨリ日本側ニ送付シ來ル筈ナルカ成ルヘク部分的ニ之ヲ行ヒ一時移駐ノ爲メ兵數ノ重複ヲ避クル様立案スル趣ナリ而シテ右C隊ハ入レ替前ハ于學忠ノ管轄下ニ入ルモノ入レ替後ハ兩督察專員ノ區署ニ屬セシムル筈ナリ

四、大東公司

支那側委員殷同ヨリ關東軍側ノ本公司設立ハ即チ關東軍カ支那領土ニ於テ滿洲國ニ移入スル支那勞働者ニ對シ許否ノ權ヲ行使スルモノニテ滿洲國ヲ承認セサル支那側ヨリ之ヲ見ルトキハ甚タシク不當ノ制度ナル次第ヲ指摘シ曾テ關東軍ニ交渉ノ結果同軍ハ善意的考量ヲ加フル旨答ヘラレシカ其後ノ成行如何トノ質問ヲ提起シ日本側ハ滿洲國ノ現狀ハ外國人ニ其條件入國ヲ許ス迄ニ至ラス歐米人ニ對シテハ已ニ國境ニ外交辦事處ヲ設置シ旅券ノ検査ヲ爲シツツアリ支那人ニ對シテモ勿論自由出入ヲ許シ得サル現狀ナルヲ以テ國境ニ國境警察隊ヲ置キ入國ノ許否權ヲ行使シ居レリ而シテ支那人ニ付テハ警察隊ノ取調ノ豫備の措置トシテ大東公司ニ入國證明書發給ノ事務ヲ行ハシムルモノニテ建前トシテハ大東公司ハ入國許否ノ補助機關ニシテ單獨ニ入國許否

三 華北問題

權ヲ行フモノニ非ス又々實際問題トシテモ折角支那勞働者カ旅費ヲ支辨シ國境ニ至リ入國ヲ拒絕セラルルヨリモ前以テ大東公司ニ於テ一應ノ取調ヲ受ケ安心シテ入國スル方勞働者ニ取りテモ便益ナルヘキ旨ヲ説明セルカ殷同ハ大東公司ハ右事務以外ニ副業ヲ有ストノ情報アリトテ不滿ノ態度ヲ示シツツモ本議案ニ付之レ以上立チ入ルコトハ之ヲ中止セリ

(備考)殷同ハ散會後田中領事ニ對シ從來大東公司ヲ主宰スル三野友吉ハ玉田地方ニ於テ密ニ民團ヲ操縱シ特種部隊ノ編成ヲ爲シツツアリトノ情報アリ大東公司ハ他ニ副業アリト云フハ之ヲ意味スル旨内話セリ然ルニ其後當館唐山出張警察官ノ入手セル灤榆督察專員陶尙銘ノ各縣ニ對スル二月十二日附密令ニ依レハ三野ハ玉田鴉鳴橋ニ於ケル王承租ノ民團ト反動份子劉桂堂トノ連絡ヲ圖リツツアリ唐山ニ於ケル日本守備隊モ之ニ關係シツツアリトテ各縣ニ警戒方ヲ命セルカ如クナルヲ以テ支那側ハ大東公司ニ對シテハ其勞働者入國事務以外ニ付相當疑惑ヲ以テ注意中ナルカ如シ

五、戰區整理委員會ノ存續問題

417 昭和10年2月21日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北航空連絡の実現方を土肥原特務機関長が
汪兆銘へ申入れについて

南京 2月21日後発
本省 2月21日後着

第一七八號

滿發貴大臣宛電報第一二〇號ニ關シ
二十一日汪兆銘土肥原ヲ招宴ノ際土肥原ヨリ申入レタル處汪ハ關係者ニ於テ國內飛行ニ付先ツ研究ヲ遂ケタル後外國トノ聯絡ヲ行ヒ度キ意嚮ナルモ御申出ニハ好意的考慮ヲ加フヘシト答ヘタル趣ナルカ後刻本官ヨリモ相互飛行ノ原則ニ基ク日支航空聯絡實現方並ニ右趣旨ヲ關係方面ニ徹底方申入レタルニ了解シ居タリ
支、北平、天津、滿ハ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

418 昭和10年3月27日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

戰區整理委員會ハ元來其存續期間ハ六ヶ月ト定メラレ居リ于學忠モ曾テ梅津司令官ニ對シ右滿期後ハ直ニ裁撤スヘキ旨内話セル處果シテ右ノ豫定ナリヤトノ日本側ノ質問ニ對シ殷同ハ右期間ニ拘ハラス戰區ノ人事其他ノ一切ノ行政整理セラルル迄ハ之ヲ裁撤セサル旨ヲ明言セリ

六、國境ヲ利用スル匪賊並ニ不良份子ニ對スル

共助的措置

最近熱河ニ於ケル第七師團力討伐セル匪賊ノ一部ハ國境ヲ越ヘテ遵化縣城ニ遁入シ同師團ハ之ヲ追撃スルヲ得ス同縣長ハ速ニ右匪賊ヲ搜查逮捕シ日本軍ニ引渡サレ度旨日本側ヨリ申出テ支那側ハ當時右ノ通報ヲ得早速遵化縣ニ手配ヲ命シタルモ稍々時日ヲ經過シ居タル爲メ未タニ逮捕ニ至サル旨ヲ答ヘ尙ホ支那側ハ戰區内民團整理、保安隊充實等ノ爲メ不良份子ノ熱河方面ニ遁入スルニ至ルヘク双方ニ紛糾ヲ生スル恐アルヲ以テ此ノ際國境ヲ出入利用スル匪賊及不良份子ニ對スル共助的措置ニ關シ取極メヲ作り置キ度キ議成立シ儀我大佐ニ於テ研究立案スル事ト爲レリ

華北航空連絡交渉の停滯に関する唐有壬内話
について

南京 3月27日後発
本省 3月27日後着

第三三八號

北平發本官宛電報第一九號ニ關シ
廿七日唐有壬ハ殷同月未來寧ノ筈ナリシモ黃郛ノ來寧期(往電第三三三號未段)ヲ見計ヒ南下スルコトナレリ同人ハ滿支航空連絡打合ノ使命ヲモ有スルモノノ如ク關東軍カ滿支合辦會社ヲ主張シ居ルニ對シ支那側ハ滿支各別會社ノ國境ニ於ケル連絡ナラハ兎モ角夫以上ハ所謂日支申合ノ域ヲ越ユルモノナリトノ建前ナレハ殷同モ板挾トナリ請訓ノ必要ヲ感シタル次第ナルヘシト述ヘタルヲ以テ本官ヨリハ北支ノ實情ニ即セル措置ヲ考慮方申聞ケ置キタリ
支、北平、天津へ轉電セリ

419 昭和10年4月16日 在滿州国南大使より
広田外務大臣宛(電報)

關東軍の軍用飛行機による華北航空連絡の実

施計画について

新 京 4月16日後発
本 省 4月17日前着

第三四三號(極秘)

往電第一二〇號所報ノ北支通空問題ニ關シテハ其ノ後具體的ノ進展ヲ見サル處今般關東軍ニ於テハ停戰協定實施ニ關シ在滿支日本軍隊其ノ他ノ機關トノ連絡ノ爲左記要領ニ依リ北支方面ト航空連絡ヲ行フコトナリ十七日ヨリ之ヲ開始スル豫定ニテ本件ニ關シ外國側等ヨリ質問等出テタル場合ハ「今次軍用飛行機ヲ以テ北支乗入ヲ實行セシハ近來停戰地域ニ於テハ保安隊ノ改編等ノ爲多事ナルヲ以テ停戰協定第二項ノ精神ニ基キ飛行機ヲ以テ關係機關及部隊間ヲ密ニ連絡シ事故ヲ未然ニ防止シ彼我ノ福祉ヲ全フセンコトヲ期スルニ外ナラス」トノ趣旨ニ依リ説明スルコトニ當館トモ打合セタルニ付テハ右ノ次第關係方面ヘ御通達相煩度シ

左 記

一、航空路

(イ)錦州、承德、北平、天津、山海關、錦州線(每週一回)
(ロ)承德、多倫、張家口、多倫、承德線(每週一回但シ

當分ノ間承德、多倫ノ往復ニ止ム)

二、使用飛行機ハ日本軍用標識ヲ附シ(イ)線ニアリテハ「スパー」機(ロ)線ニアリテハ「モス」機トス

三、支那側ニ於ケル飛行場ハ北平(南苑)^(電)天津(東機器局飛行場)張家口(未定)

四、本連絡ハ定期航空ヲ實施スルモノナルモ當分ノ間ハ毎回軍側ヨリ支那側ニ對シ乗入通告ヲ爲スモノトス
北平、天津、支、南京ヘ轉電セリ

420 昭和10年4月18日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

軍用飛行機による華北航空連絡を關東軍実施について

天 津 4月18日後発
本 省 4月18日後着

第八七號

滿發閣下宛電報第三四三號ニ關シ

錦州發ノ第一回飛行機ハ昨十七日北平ヨリ當地ヲ經由セシカ一般ニ何等ノ衝動ヲ與ヘス支那新聞モ全ク沈黙シ居ル處

422 昭和10年4月19日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

關東軍による華北航空連絡の強行実施に対し
唐有壬憂慮表明について

上 海 4月19日後発
本 省 4月19日後着

第三四六號(極秘)

⁽¹⁾在滿大使發閣下宛電報第三四三號ニ關シ

過日南下セル殷同ハ十三日本使ト會談ノ節支那側ニ於テハ塘沽協定ノ際ノ附屬了解ニ從ヒ長城線ニテ中繼ノ滿支航空連絡ヲ實行スル用意アル處關東軍側ニ於テハ日支合辦會社ヲシテ連絡セシムル形式ヲ固持シ居リ前記了解ノ範圍ヲ越ユルモノナレハ到底應諾シ難ク右ニ付關東軍側ノ態度緩和方懇請中ナリト述ヘ居タルカ同人ノ口吻等ニ鑑ミ今回ノ一方的飛行ハ或ハ支那側北支當局者中到底之ヲ阻止シ得サルモノトシテ諦メ居ルモノナルニモ思ハル筋アル處十八日唐有壬ハ堀内ト會談ノ節
右ハ支那ノ主權ヲ侵害スル外廣田大臣ノ聲明等ニ依リ折角緩和セラレツツアル日本ノ侵略ニ對スル支那民衆ノ不安ヲ

増大セシメ政府對日政策ノ遂行ヲ困難ナラシムルモノニシテ殊ニ飛行機飛來ニ際シ不測ノ事變起ルカ如キコトアラハ憂慮スヘキ事態ニ立至ルヘシト述ヘタリ(堀内ヨリ冒頭電ノ次第ヲ説明シタルモ唐ハ猶納得セサル模様ナリシニ付更ニ支那カ新聞等ニテ騒カヌ様手配方申入レ置キタル趣ナリ) 旁本件飛行ニ付テハ萬事支那側ヲ刺戟セヌ様充分ノ注意ヲ用フルコト必要ナル外之カ決行ハ支那側ノ不安ヲ惹起シ當方面ニ於ケル交渉ニ對シ惡影響ヲ及ホスコトヲ覺悟セサルヘカラスト存ス尙政府ニ於テハ右等ノ事情ヲモ御考量ノ上本件實行ヲ決定セラレタルコトト存セラルル處右決定ノ事情本使含迄ニ御回示ヲ請フ

滿、北平、南京ニ轉電セリ

423 昭和10年4月20日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

華北航空連絡の強行実施に関する高橋武官補佐官の説明について

北平 4月20日後発
本省 4月20日後着

424 昭和10年4月20日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛

華北航空連絡問題への蒋介石態度に関する殷同の内話について

機密第三一八號 (5月1日接受)

昭和十年四月二十日

在南京

總領事 須磨 彌吉郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

北支航空連絡ニ關シ殷同談話報告ノ件

本月十八日殷同本官ヲ來訪シ北支航空連絡問題ニ關シ左ノ通り内話セルニ付報告申進ス

航空委員會ハ外國トノ航空連絡ヲ一切拒否スル方針ヲ決定セルモ蒋介石ハ北支ニ於ケル連絡ハ戰區問題ニモ關係アレハ特例ヲ認ムルコト然ルヘシトノ見地ヨリ同委員會ニ壓迫ヲ加ヘ國境ニ於ケル連絡方ヲ自分(殷同)等ニ訓令越セリ然ルニ關東軍側ハ右ニ満足セス合辦會社設立ノ一點張りニテ押シ進ミ居ルタメ蔣モ激昂セルモノカ爾后自分等ノ報告ニ對シ何ノ返事モナク當惑シ居レリ(十七日唐有任^(主)モ本官ニ

第一一〇號(極秘)

滿發閣下宛電報第三四三號ニ關シ
當地陸軍武官ノ内報ニ依レハ

一、本件航空ハ同武官ノ進言ニ依リ關東軍ニ於テ實行スルニ至レルモノニシテ北支通空交渉ノ涉々シカラサルニ顧ミ一方之ヲ促進スルト共ニ(尤モ此ノ點ハ左程期待シ居サル由)支那殊ニ北支人ヲシテ日本飛行機ノ飛來ニ馴レシメ北支通空ノ素地ヲ作ラントスルニアル由ニテ外國側ヨリノ質問ニ對スル説明振モ成ル可ク之ヲ簡單ニシタキ意嚮ナル趣ナリ

二、冒頭電航空路ハ外部ニ發表セス、(イ)ノ航空路ハ現在火曜日ヲ原則トシ(ロ)ハ未定ナル由ナルカ座席ノ許ス限り或ル程度ニ於テ一般ニモ座乗ヲ許ス由ナリ

三、支那側ニ對スル通告ハ從來軍用飛行機飛來ノ際ニ於ケルト同様同武官ヨリ軍事分會ニ簡單ニナシ居ル由

尚本件關東軍ノ措置ハ客月三十日附南大使發閣下宛機密第四八九號ノ最近同軍ニ於テ決定ノ對支政策實行ノ一端ト察セラルル處當地新聞ニハ未タ問題トナリ居ラス
支、南京、天津ニ轉電セリ

對シ蔣ハ航空問題サハ片附カハ自然北支ノ日支交渉ハ外交機關ニ移サルヘシトノ考慮ヨリ連絡方決意シ居レリト内話セリ)

關東側カ合辦公司ヲ是非共設立スヘシト云フナラハ先ツ福岡上海間連絡達成ヲ目的トスル公司ヲ組織シ右ヲシテ北支ニ於ケル連絡ニモ當ラシムルコト支那側面子上ヨリスルモ

妙ナルヘシト思考セルモ關東軍側ノ同意スル處トナラス話合ノ途ヲ失ヘリ

本信寫送付先 公使 北平 在滿大使

425 昭和10年5月1日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

華北航空連絡強行實施など關東軍の強硬な態度が黄郭らの立場を困難にしていると袁良北平市長が憂慮表明について

北平 5月1日後発
本省 5月1日後着

第一一九號(極秘)

袁良ハ黃郭ノ招電ニ依リ北支時局ニ付種々打合ノ爲本一日

當地發莫千山ニ赴キタルカ四月二十七日往訪ノ清水ニ對シ熱心ニ左ノ通り語レル趣ナリ何等御參考迄

日支兩國ノ關係ハ外交當局ノ努力ニ依リ漸次好轉ノ機運ニ向ハントシツツアルニ拘ラス最近關東軍ノ態度ハ反對ニ之ヲ打毀サントシ兩國ノ關係ハ再ヒ逆轉スルニアラスヤト憂慮セラレ例ヘハ航空連絡問題ニ關シ關東軍側ハ一方的ニ飛行機ノ北支乗入ヲ強行シ着陸ノ都度數時間前電話ニテ我官憲ニ通報スルノミニテ全ク我方ノ面目ヲ潰シ居ルハ如何ニモ酷キ仕打ニテ一般ニ深刻ナル衝動ヲ與ヘ居ルモ何應欽ノ指圖ニテ本件ニ關スル新聞記事掲載ヲ禁シ居ル爲辛フシテ表面ニ問題化スルコトヲ壓ヘ居ル有様ナリ斯ル狀態ニテハ黃郛モ到底歸平スルコト能ハサルヘク有吉公使ノ如キモ界シテ歸任スルヤ否ヤ危フマルル次第ナリ日本側ニテハ宋子文、孔祥熙等所謂歐米派ノ策動ヲ危惧シ居ル模様ナルカ彼等ヲ責ムルヨリモ寧ロ日支相互ノ努力ニ依リ兩國關係ヲ健全ニシ自然彼等ノ策動ノ餘地無カラシムルコト肝要ニシテ之カ爲ニモ國民一般ノ對日感情ヲ改善スルコト根本問題ナルカ前述ノ如キ關東軍ノ態度ニテハ却テ彼等ニ策動ノ口實ヲ與ヘ親日派ノ立場ヲ困難ナラシメ兩國關係カ如日常態

427 昭和10年7月8日 在滿州国南大使より 広田外務大臣宛

滿州国主要都市と天津・北平との電話電報連絡に關し山海關特務機關長と殷同の間で協議妥結について

公機密第一二五五號 (接受日不明)

昭和十年七月八日

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

滿華間電話聯絡申合事項及電報聯絡ニ關スル

諒解事項送付ノ件

本件ニ關シ在山海關儀我特務機關長ハ六月二十七日北戴河ニ於テ殷同ト會見シ別紙ノ如キ申合セ及諒解ヲ爲シタル趣ニテ今般關東軍ヨリ通報越セリ右申合事項及諒解事項茲ニ送付ス

(別紙)

關特報(支)第二十七號

三 華北問題

ニ復スルヤ甚タ覺束無キ次第ナリ

右ハ本人ノ立場モアリ一切外部ニ漏レサル様特ニ御配慮ヲ請フ

426 昭和10年5月16日 在中国若杉大使館參事官より 広田外務大臣宛(電報)

華北航空連絡の実務に當るため滿州航空会社
の前運航部長が北平到着について

北平 5月16日後発
本省 5月16日後着

第一三九號

往電第一一〇號ニ關シ

其ノ後關東軍ノ北支航空ハ大体毎火曜日ニ行ハレ目下右飛行ハ戰區視察ノ爲ノ軍用ニ限り一般ノ乗客ヲ斷リ居ル處當地ニ於ケル航空機發着ノ用務ノ爲前滿洲航空會社運航部長現關東軍囑託岡部猛(豫備航空大尉)今般當地ニ來着北平日本陸軍武官府囑託ナル名義ノ下ニ當地ニ駐在スルコトナレリ

支、南京、天津ニ轉電セリ

昭和十年七月四日

關東軍參謀部

滿華電話連絡申合事項

昭和十年六月二十七日、北戴河ニ於テ下記代表間ニ滿華間電話連絡ニ關シ左記申合ヲ爲シタリ

關東軍 儀我山海關特務機關長

滿洲電信電話株式會社 市橋外信課長

北寧鐵路局 殷同局長

天津電報局 王局長

北平電話局 林主任工程師

記

一、連絡線障礙ニ於ケル措置

連絡線障礙トナリタル場合ハ山海關ニ於ケル双方ノ局ニ於テ對手局側ニ通知スルト共ニ各自ノ區間ニ於ケル障害ノ修理ニ當ルコト

二、通話區域

滿洲側 奉天、大連、安東、營口、錦縣

中國側 天津、北平

右ノ外新京、哈爾賓トノ通話ニ付テハ追テ商議ノコト

三、連絡通話ノ種別

- (1) 通話 普通々話及至急通話
(2) 呼出 普通呼出及至急呼出

四、交換事務用語

隨時中國語又ハ日本語ヲ以テス

五、電話番號簿ノ交換

不取敢百部ヲ交換スルコト

六、通話時間

原則トシテ二十四時間無休トス

七、一通話時ノ長サ

一通話時ノ長サハ三分又ハ其以内トス

八、連絡通話ニ使用スル時刻

連絡通話ニ使用スル時刻ハ東經百二十度ノ時刻トシ隨時

接續局間二時刻ノ照會ヲ爲スコト

九、通話ノ監視及通話時數ノ決定

右ハ發信局ニ於テ行フモノトス

十、料金

料金ハ當分ノ内各自之ヲ定ムルコトトシ出來得ル限り双
方向ニ對シ同額トスルコト

十一、精算

原則トシテ料金ノ精算ヲ爲スモ當分ノ内ハ之ヲ行ハサル
コト

十二、記錄ノ作成

双方ニ於テ發着通話時數ノ記錄ヲ作成シ置クコト

十三、新聞發表

右ハ各自適宜行フコト

以上

附 錄

電報連絡ニ關スル諒解事項(特ニ文書ヲ交換シアラス)

昭和十年六月二十七日北戴河ニ於テ行ヒタル滿華間電話打
合ニ關連シ左記滿華間電報取扱ニ關スル諒解成立セリ

一、電報料金ノ精算

右ハ電話料金ヲ精算スルニ至リタルトキ同時ニ行フコト

二、日文電報取扱

近ク天津、東京間ニ日文電報取扱開始セラルルニ鑑ミ關
東州租借地及南滿鐵道附屬地内主要局ト北支トノ間ニモ
日文電報ノ取扱ヲ爲ス、ソノ地名ハ當分次ノ如シ

新京、公主嶺、四平街、開原、鐵嶺、奉天、撫順、
遼陽、鞍山、大石橋、金州、大連、旅順、安東、本
溪湖

以上

428 昭和10年7月20日 在中国若杉大使館參事官より
広田外務大臣宛(電報)

華北航空連絡問題に關し關東軍が中国側と会

商の予定について

北平 7月20日後発
本省 7月20日後着

第二五〇號

北支航空聯絡ハ支那側トノ交渉進捗セス軍側ニ於テハ在滿
大使發閣下宛電報第三四三號ノ措置ヲ實施中ナル處最近支
那側ニ於テモ停戰協定申合事項ニ基ク通空問題ニ關シ關東
軍ト會商スル用意アル事ヲ表明スルニ至リ來ル二十二日ヨ
リ日支代表天津ニテ會合スル事ニ決シ支那側代表ハ殷及王
若僊(天津電報局長)關東軍代表ハ儀我大佐及山瀬中佐ニシ
テ高橋補佐官及天津軍ヨリ一名「オブザーバー」トシテ參

加シ日支合辦ノ航空會社設立ヲ目標トシテ協議スル趣ナリ
尙本件ハ發表無キ様軍側ヨリ希望アリタル處御含置ヲ請フ
支、南京、天津、滿ハ轉電セリ

429 昭和10年8月10日 在中国有吉大使より
広田外務大臣宛(電報)

メーズ総稅務司が避暑のため海關巡視船で北

戴河入港の旨我が方に通報について

上海 8月10日後発
本省 8月10日後着

第六二九號

本使發天津宛電報

第一五號

「メーズ」ハ例年通り海關巡視船海星號(白「ペンキ」塗リ
小サキ大砲二門ヲ有ス)ニテ十二日當地發十五日北戴河着
避暑ニ赴キ廿六日發歸滬ノ豫定ナル趣ナルヲ以テ同船ニ關
シ塘沽協定其ノ他ノ關係上日本陸海軍武官側ニ於テ何等誤
解ナキ様取計ハレ度旨願出テタルニ付然ルヘク御取計ヲ請
フ(陸海軍武官室ニ通報済)

尙同船ハ右期間中近海ノ燈臺ヲ巡視スル由ナルカ右日程郵報ス

大臣、北平、芝罘、青島、滿へ轉電シ上海へ轉報セリ

430 昭和10年8月12日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

メーズ通報に対し支那駐屯軍司令部は武装艦船の塘沽停戦協定区域沿岸三海里内進入が協定違反のため北戴河入港を不許可と回答について

天津 8月12日後発
本省 8月12日後着

第二〇八號

本官發支宛電報

第一〇九號

貴電第一五號ニ關シ

係官ヲシテ當地司令部ト打合せシメタル處上海陸軍武官ヨリ司令部宛ニモ電報アリタルニ對シ司令部ヨリ武装艦船ノ停戦區域内入港ハ塘沽協定違反ナルニ付許容シ難キ旨返電セル趣ニテ昭和九年十二月六日附天津軍宛關東軍通牒ニ依

レハ(イ)火砲。裝備艦船ハ一切停戦區域沿海三海里内ニ立入ルヲ許ササルモ(ロ)支那側ヨリ正式ニ申出アリタル場合ニハ水上公安隊所屬船ニ限り(但シ武装ハ機關銃三臺、小銃若干ヲ限度トス)一時ニ二隻丈ケハ立入ヲ許スコトナリ居リ

尤モ右以外炭水補給ノ爲支那軍艦等ニ對シ日限ヲ限リ一時的ニ入港ヲ許可セル例ハアルモ(客年滿發大臣宛電報第九〇〇號等参照)右ハ事實補給ノ要アリト認メタル場合ニ限ル趣ナリ

大臣、北平、青島、芝罘、滿へ轉電セリ

431 昭和10年8月14日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

メーズに対し沿岸三海里外で非武装船舶に乗換るならば北戴河入港に異存ないとの支那駐屯軍の見解を通報について

天津 8月14日後発
本省 8月14日後着

第二一〇號

本官發支宛電報

第一一一號

貴電第一五號ニ關シ(海星號ノ停戦區域航行一件)

海星號ハ三漣外ニ碇泊シ武装セサル小蒸汽船等ニテ上陸スルコトハ司令部トシテ何等異存ナキ趣ニ付其ノ旨當地海關ヨリ海星號宛電報方依頼濟

大臣、北平、滿、青島へ轉電シ芝罘へ暗送セリ

432 昭和10年8月20日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北航空連絡問題に関する会商が決裂し關東軍が自由行動をとる旨を中国側に通告について

天津 發
本省 8月20日後着

第二一八號(極秘扱)

北平發貴大臣宛電報第二八一號ニ關シ(日支飛行合辦事業ノ件)

竹下大佐ノ岸ニ對スル内話ニ依レハ十七日天津ニテ第六回ノ會議ヲ開キタルモ支那側ハ依然一步モ讓ラス遂ニ儀我大佐ヨリ先方ニ對シ航空聯絡開始ハ塘沽協定ニ關スル申合事

項ノ一トナリ居ルニ拘ラス支那側ニ於テ誠意ヲ示ササル以上我方トシテハ最早自由行動ヲ採ルノ外無キ旨ヲ告ケ決裂

狀態トナレルカ(儀我大佐ハ十九日離津滿洲經由歸朝ノ途ニ就ケリ)支那側ハ我方ノ態度強硬ナルニ驚キ頻リニ會議再開方同大佐ニ懇請セルモ突撥ネ居レル趣ナリ

支、北平、南京、濟南、滿へ轉電セリ

433 昭和10年9月24日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

日本軍による秦皇島税関監視船への武装解除に關し孔祥熙が真相確認方要請について

南京 9月24日前発
本省 9月24日後着

第一〇一六號

本官發天津宛電報

第二七號

二十三日孔祥熙ヨリ本官ニ對シ貴地海關ヨリノ報告ニ依レハ日本軍側カ貴地海關管轄區域内ニ於テ監視船二隻ノ武装解除ヲ行ヘル旨報告アリシカ右監視船ハ全然密輸防止ノ爲

備へアルニ過キサル譯故何トカ解決ノ方法無カルヘキヤト
懇談シタル上兎モ角眞相確メ方依頼アリタルニ付本官ヨリ
ハ何等承知セサルモ妄リニ戰區ヲ犯シタルニ於テハ當然ノ
措置ナルヘシト應酬シ置キタリ事情爲念御回電アリタシ
大臣、支へ轉電セリ

434 昭和10年10月2日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛

日本軍の秦皇島税関監視船武装解除要求に對
する外交部抗議について

機密第六九九號 (10月18日接受)

昭和十年十月二日

在南京

總領事 須磨 彌吉郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年十月二日附機密第三九〇號有吉大使宛公信寫送付
件 名

秦皇島日本駐屯軍ノ税関ニ對スル要求ニ關シ

外交部ニ抗議ノ件

機密第三九〇號

昭和十年十月二日

在南京

總領事 須磨 彌吉郎

在中華民國

特命全權大使 有吉 明殿

秦皇島日本駐屯軍ノ税関ニ對スル要求ニ關シ

外交部抗議ノ件

本件ニ關シ貴大使宛九月三十日附汪外交部長來翰別添ノ通

(譯文添附)轉達ス

本信寫送付先 大臣 北平 天津

(別 添)

拜啓陳者總稅務司ノ報告ニ據レハ秦皇島日本駐屯軍司令官
ハ秦皇島税関ニ對シ巡邏船ノ設備セル機關銃撤去方次イテ
更ニ又秦皇島一帶ニ於ケル海關密輸取締船ハ其武装ト非武
裝トヲ問ハス一律二三海里ヲ隔タシムヘキ旨要求セル趣ナ
ルカ查スルニ支那税関カ其領土領海内ニ於テ適當ナル措置
ヲ採リ密輸脱稅ノ防止ヲ圖ルハ當然ナル職權ノ行使ニシテ

何等干涉ヲ受クヘキ筋合ニ非ス

最近ノ海關統計ニ據レハ密輸貨物激增シ來タレル處右ハ河
北省沿海一帶ニ於テ特ニ甚シ故ニ海關ニテハ右事情ニ基キ
更ニ有效ナル辦法ヲ設ケ嚴重取締ルノ必要ヲ認ムルニ至レ
リ此種密輸取締辦法ハ施行已ニ久シキ處其目的ハ全然關稅
ノ完全ナル維持ト正當ナル商人ノ利益保護ニ在ル次第ナル
ヲ以テ密輸取締ヲ有效ナラシムル爲ニハ前記巡邏船ハ絕對
必要ナリ然ルニ今回日本駐屯軍ヨリ上記ノ如キ要求ヲ提出
スルニ至リタルハ寔ニ了解ニ苦シムトコロナリ就テハ右事
情御承知ノ上軍側ノ要求差止メ方御電飭相成並ニ何分ノ儀
御回答相成度

編 注 別添は訳文のみ採録。

435 昭和10年10月4日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

秦皇島税関監視船に對する日本駐屯軍の武装
解除等対処振りについて

天津 10月4日後発
本省 10月4日後着

第二八二號
本官發南京宛電報

第二六號
貴電第二七號ニ關シ

本件ニ關スル關東軍ノ態度ハ本官發支宛電報第一〇九號
(支ヨリ貴官ニ轉電方支ヘ電報セリ)所報同軍通牒ノ通ニシ
テ武装税関監視船ノ停戰區域沿岸三海里内立入ニ關シテハ
客年來山海關特務機關長ヨリ秦皇島税務司ニ對シ屢非公式
ニ注意ヲ喚起シ來レル趣ナリ

元來秦皇島所屬監視船ハ榆光及林榆ノ二隻(孰レモ機關銃
及小銃ヲ搭載ス)ニシテ同地ヲ根據トシテ近海ヲ游弋シ又
天津及芝罘海關所屬船モ時折停戰區域領海内ニ立入りタル
模様ナルカ(當地税務司「ヒリヤード」ハ本年初夏「メー
ズ」ノ北戴河行以前ニ芝罘所屬監視船海清號ニテ北戴河ニ
赴キタルコトアリ其ノ際ハ我方軍側ニテ氣付カサリシモノ
ノ如シ)九月初旬前記榆光號偶々秦皇島ニ歸來ノ際其ノ武
装セルコトヲ秦皇島守備隊長ニ發見セラレ抗議ヲ受ケ數次

押問答ノ結果税關長「モルガン」ハ兎モ角モ之ヲ武裝ノ儘
三海里外ニ出テシメ(目下滯津中ノ「モルガン」ノ岸二内
話スル所ニ依レハ同船ハ實ハ渤海灣沿岸各燈臺ニ對スル物
資供給ヲ主タル任務トシ九月初旬秦皇島ニ來レルハ燈臺修
理用煉瓦積取ノ爲ナリシモ之スラ果サシテ出港セシメタ
ルカ問題解決迄ハ歸來セシメサル積リナル趣ナリ)又林榆
號モ九月中旬武裝ヲ發見セラレ守備隊長及竹下機關長抗議
ノ結果武裝ハ之ヲ取外シテ上海ニ送り船体ハ破損航行不能
ノ爲目下秦皇島ニテ修理中ナリ
貴電ト共ニ滿、北平ヘ轉電セリ
大臣、支ヘ轉電セリ

436 昭和10年10月8日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

塘沽停戦協定の区域沿岸三海里への適用は不
当な拡大解釈との中国側見解を反駁について

南京 10月8日後発
本省 10月8日後着

第一〇九〇號

本官發天津宛電報

第三一號

貴電第二六號ニ關シ

八日唐有壬ハ在北平程特派員ヨリノ報告ニ依レハ天津軍ハ
戰區三哩ノ海上ニ於テモ武裝ヲ許ササルヘキ旨主張シ居ル
處右ハ停戦協定ヲ逸脱セル解釋ナリトテ今後二隻ノ武裝監
視船ハ行動ノ自由ヲ認メラレタシト申出テタルニ付本官ヨ
リ累次貴電ノ趣旨ヲ述ヘ停戦協定ハ三哩ノ領海ヲモ包含シ
其ノ區域内ノ武裝ヲモ解除スルニアラサレハ意味ヲ爲ササ
ル次第ヲ篤ト説示シ先方申出ヲ撥付ケ置キタリ
大臣、支、北平、滿ヘ轉電セリ

437 昭和10年10月9日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)

税関武裝監視船の塘沽停戦協定区域沿岸三海
里内進入禁止問題に関する竹下山海関特務機
関長と税関側の協議妥結について

付記 十月十四日付、東亜局第一課作成

華北航空連絡問題および税関監視船の塘沽停

戰協定区域進入問題に関する在本邦中国大使
への広田外務大臣説明用資料

天津 10月9日後発
本省 10月9日後着

第二八八號

本官發南京宛電報

第二七號

往電第二六號ニ關シ

竹下機關長トシテハ税關側從來ノ態度ニ顧ミ小銃等ヲ依然
船内ニ隠匿スル等ノ疑モアリ監視船ハ今後一切停戦區域ニ
入ルヲ許サス監視ノ要アラハ本官發支宛電報第一〇九號水
上公安隊所屬船ヲ税關側ヲシテ共同利用セシムレハ可ナル
ヘシトノ意嚮ナリシカ其ノ後「モルガン」ニ於テ竹下機關
長ト懇談ノ結果林榆號ハ從來ノ行懸上兎ニ角停戦區域外ニ
出航セシムルコトヲ條件トシ今後監視船入域ノ場合ニハ拳
銃數挺ノミ搭載ヲ許シ但シ事前ニ税關長ヨリ機關長ニ對シ
監視船入域ノ豫定及拳銃ノ數等ヲ通報其ノ承諾ヲ得タル上
ニテ入域セシムルコトニ話纏マレル趣ナリ
大臣、支、北平、滿ヘ轉電セリ

(付記)

蔣大使ニ對スル大臣應酬參考資料

昭和十年十月十四日 亞一、太田記

(一)北支ニ於ケル陸軍飛行機ニ關スル件

昭和八年十一月ノ北平申合ニ依リ長城内外ニ於ケル航空
聯絡實現ノ爲關東軍ト華北當局トノ間ニ協議ヲ進ムルコ
トニ話合成立シ爾來双方當事者間ニ於テ屢次會商ヲ續ケ
來レルモ支那側ニ於テハ種々口實ヲ設ケテ聯絡ニ應セス
交渉渺々シカラサル爲(關東軍最終ノ提案ハ滿支合辦ノ
華北航空公司ヲ設立シ同會社ヲシテ大連、錦州、承德、
北平、天津、濟南、青島、太原、張家口等ノ諸市ヲ聯絡
スル航空路ヲ開拓セシメントスルニ在リ)關東軍ニ於テ
ハ右交渉促進ノ見地ヨリ本交渉ト併行シ北支ニ於ケル航
空路開設ノ既成事實ヲ作ル爲軍用飛行機ヲ北平、天津、
張家口等ノ方面ニ頻繁ニ飛ハセタル模様ニテ(外國側等
ヨリ質問アリタル場合ニハ「軍用飛行機ノ北支乘入ハ停
戰地域ニ於ケル事態ニ鑑ミ停戦協定第二項「支那側ノ停
戰地域撤退實行ヲ確認スル爲隨時飛行機及其ノ他ノ方法
ニ依リ之ヲ視察ス。中國側ハ之ニ對シ保護及諸般ノ便宜

ヲ與フルモノトス」ノ精神ニ基キ飛行機ヲ以テ關係機關及部隊間ヲ聯絡シ事故ヲ未然ニ防止セントスルニ外ナラス」トノ趣旨ニ依リ説明スルコトナリ居レリ。其ノ後北支事件ノ際ニハ北平南苑ノ飛行場ヲ占據シテ支那軍隊ノ移動監視ヲ理由ニ遠ク保定、徐州、青島邊ニモ飛行セル趣ニテ八月三日外交部ハ部員ヲ南京總領事館ニ派シ「日本飛行機四台支那側ノ許可ナクシテ南苑飛行場ヲ占據シ工作人員十名ヲ以テ山海關、天津、張北、承德、保定方面ヲ往來シ居ル處右ハ中國主權ノ侵害ニ付華北各機關、航空委員會、參謀本部等ヨリ外交部ニ對シ撤退申入方要求アリタルニ付テハ察哈爾事件モ一段落ノ今日至急撤退方御取計アリ度」旨口頭ヲ以テ申入アリ右ニ對シテハ陸軍側トモ打合ノ上八月九日「本件申出ハ差當リ默殺シ置カレ度シ尤モ特ニ回示ノ必要アルニ於テハ本件飛行ハ北支停戰協定ニ基ク當然ノ措置ニシテ同協定成立以來何等故障ナク繼行セラレ居リ今更支那側ヨリ苦情アルヘキ筋合ニ非ス支那側トシテハ右ニ對シ兎角ノ論議ヲナスヨリハ寧ロ進ンテ目下懸案中ナル滿支航空聯絡ヲ急速實現セラルルコト可然キ旨強ク申聞ケ且斯クシテ北支ニ於

ケル日滿支間ノ空氣ヲ改善シ行カハ前記飛行ノ如キハ漸次其ノ必要減少スルニ至ルヘキ次第ナリ」トノ趣旨ヲ說示スヘキ旨訓電シ置ケリ。然ルニ其ノ後外交部ヨリ八月十五日附覺書ヲ以テ南苑ニ於ケル格納庫ノ使用、同所ニ於ケル軍用電話ノ架設、張家口ニ於ケル飛行場設置計畫、陝西、綏遠ニ於ケル累次ノ飛行等ヲ列舉シ右ハ支那ノ主權ヲ害スルモノナルニ付嚴重制止方取計ハレ度旨重ネテ申越セルニ付南京總領事ニ於テハ前記訓電ノ趣旨ニ依リ可然ク應酬シ置キタル趣ノ處十月十二日南京來電ニ依レハ外交部ニ於テハ十一日覺書ヲ以テ右八月十五日附覺書ニ對スル回答ヲ督促スルト共ニ「其ノ後ノ報告ニ依レハ日本飛行機ハ最近更ニ寫眞機ヲ以テ支那領空ニ於テ任意ニ撮影測量ヲ爲シ居リ搭乗者ハ軍事關係者ノ外ニ大使館員、學生、婦女子、新聞記者、滿鐵職員等アリ飛行區域ハ青島市滄口飛行場ヲ初メ察哈爾、綏遠、山西、山東各省一帶ニ亘リ居ル趣ニ付前同申入通り此ノ種違法行為制止乃至急取計ハレ度キ」旨申越セル趣ナリ

策」三條件殊ニ右第二、滿支接壤地域ニ於ケル事實上ノ提携連絡カ本件解決ノ根本要件ナルコト（尙軍側ニ於テハ最近對蒙工作ノ見地ヨリ察哈爾、綏遠方面トノ連絡飛行ヲ重視シ屢々同方面ニ飛行シ居ル模様）竝ニ滿支航空聯絡ノミナラス上海福岡間航空聯絡ノ急速實現モ肝要ナルコト等說示セラルルコト宜シカラン。

尙關東軍飛行機カ停戰地域ヨリ著シク離レタル地點例ヘハ保定、徐州方面ニ迄モ飛行スルコトニ關シテハ其ノ餘リ面白カラサルコト隨次當方ヨリ軍中央部ニ話アリ。

（最近ニ於テハ九月二十八日滿洲航空會社所屬旅客機（本件飛行ノ爲特ニ北平ヨリ大連ニ廻航セルモノ）一台大連ヨリ青島着更ニ濟南ニ向ヘリ）

（二）秦皇島海關巡邏船ノ武裝問題

昭和八年五月三十一日ノ塘沽停戰協定第一條ニ依リ支那軍隊ハ延慶蘆台ヲ連ヌル線以內ニ侵入スルヲ得サルコトナリ居ル處關東軍ニ於テハ右非武裝地帯ハ停戰地域海面三海里內ニモ及フモノナリトナシ昭和九年七月北載河ニ碇泊中ノ支那軍艦楚豫ヨリ秦皇島ニ於テ炭水ヲ補給シ度旨申出アリタルニ對シ同艦カ一時的單ニ炭水補給ノ爲

ノミナラハ差支ナキモ他ノ目的（楚豫ハ南京ヨリノ指令ニ基キ密輸入監視ノ爲北載河ニ來レルモノト思ハル）ノ爲ニ秦皇島ニ碇泊スルハ許容シ難シトテ結局之ヲ退去セシメタルコトアリ續イテ同年八月河北省海上公安局巡邏船開海號（大砲及機關銃裝備）カ警備ノ爲北載河ニ現ハルルヤ關東軍ハ于學忠ニ對シ

「開海ハ關東軍ノ諒解ナク、進入セルヲ以テ速ニ退去セシムルヲ要ス但シ爾後支那側カ正式ニ願出ツルニ於テハ左ノ條件ニ依リ小型警察船ノ配置ヲ許可スルノ意圖ヲ有ス

（イ）停戰地區ノ領海ニ使用スヘキ警察船ハ海上公安隊ニ屬スルモノニ限ル
（ロ）警察船ハ機關銃三以下及小銃若干ヲ裝備スルコトヲ得ハ同時ニ停戰區域ニ使用シ得ヘキ警察船ハ二隻以下トス警察船配置ノ期間ニ就テハ制限セス」

トノ趣旨ヲ通告シ爾來右以外ノ支那武裝船ハ原則トシテ一切協定地域海面ニ出入セシメサルコトナレリ從ツテ本年八月「メーズ」ヨリ海關巡視船海清號（小サキ大砲二門ヲ有ス）ニテ避暑ノ爲北載河ニ赴キ度旨申出アリタ

ルニ對シテモ關東軍ハ之ヲ許可セサリキ、

右方針ニ基キ山海關特務機關長ニ於テハ秦皇島稅關長ニ對シ同海關武裝監視船カ停戰區域海面三海里内ニ立入ラサル様屢々非公式ニ注意シ來レル趣ナルカ同海關所屬監視船檢光及林榆(何レモ機關銃及小銃ヲ搭載ス)ノ兩隻ハ秦皇島ヲ根據トシテ近海ヲ遊弋シ居タル模様ニテ本年九月初旬檢光號カ勃海灣沿岸ヨリ偶々秦皇島ニ歸來ノ際其ノ武裝セルコトヲ同地守備隊長ニ發見セラレ結局同船ハ武裝ノ儘三海里外ニ退去セシメラレ續イテ同月中旬林榆號(機關銃及小銃)モ武裝ヲ發見セラレ武裝解除ニ處セラレタリ。右ニ關シ九月三十日附有吉大使宛公文ヲ以テ汪部長ヨリ「秦皇島日本駐屯軍ハ同地稅關ニ對シ巡邏船ノ機關銃設備撤去竝ニ海關巡邏船ノ三哩内立入禁止ヲ要求シタル趣ナルカ右ハ謂ハレナキ申出ニ付軍側ノ要求差止方取計ハレ度」旨申越シ又孔祥熙ヨリモ十月九日須磨總領事ニ對シ「監視船ハ敵對ノ武器ニ非ルニ付是非共緩和アリ度」ト申出アリ須磨ヨリ戰區ノ特質上考慮ノ余地ナキ次第ヲ說示シ置ケル趣ナルカ九日天津來電ニ依レハ其ノ後秦皇島稅關長ニ於テ山海關特務機關長ト懇談ノ結果

機密大第八二三號

(11月15日接受)

昭和十年十一月八日

在中華民國

特命全權大使 有吉 明(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年十一月八日附在南京須磨一等書記官宛機密大第七

一〇號信寫送付

秦皇島日本駐屯軍ノ稅關ニ對スル要求ニ關シ

外交部宛回答ノ件

機密大第七一〇號

昭和十年十一月八日

在中華民國

特命全權大使 有吉 明

在南京

一等書記官 須磨 彌吉郎殿

秦皇島日本駐屯軍ノ稅關ニ對スル要求ニ關シ

外交部宛回答ノ件

本件ニ關シ別紙外交部長宛公文御轉達相成度

林榆號ハ從來ノ行懸上兎ニ角停戰區域外ニ出航セシムル

コト、今後監視船入域ノ場合ニハ拳銃數挺ノミ搭載ヲ許可ス但シ事前ニ稅關長ヨリ特務機關長ニ對シ監視船入域ノ予定及拳銃ノ數等ヲ通報其ノ承諾ヲ得ルコトニテ話纏レル趣ナリ

前記外交部公文ニ對シ在支大使ヨリハ未タ回答ヲ發シ居ラサル處蔣大使申出ノ内容カ前記公文ノ程度ナルニ於テハ本件ハ右稅關長ト特務機關長トノ話合ニテ既ニ一應解決シ居ルモノナリ。此レ以上ノ辦法ハ敍上ノ經緯竝ニ北支方面ニ於ケル密輸情況等ニ鑑ミ困難ナリト思考セラル。

(三)九月八日秦皇島驛ニ於ケル鮮人ノ暴行事件

右ニ關シテハ出先ヨリ未タ報告ナシ蔣大使申出ノ内容ニ依リテハ真相報告方訓電スルコト致スヘシ

438

昭和十年十一月八日

在中国有吉大使より
広田外務大臣宛

外交部に對し塘沽停戰協定区域沿岸三海里内における稅關監視船の武裝解除は正當である
旨回答について

本信寫送付先

外務大臣

北平

天津

(別紙)

外第三一號

以書翰啓上致候。陳者、九月三十日附貴部長公文ヲ以テ秦皇島ニ於ケル海關監視船武裝解除ノ件ニ關シ御申越ノ次第有之候處我方ニ於テ武裝セル船舶カ停戰區域ノ領海内ニ進入セサル様要求シ居ルハ停戰協定ニ基ク當然ノ要求ニシテ海關監視船タルト否トヲ問フモノニ無之候。尤モ我方トシテ貴國側ノ條約上正當ナル密輸取締ニ何等干涉スル意圖ヲ有セサルコト勿論ニ候。尙本件ニ付テハ現地ニ於ケル兩國當局者ノ間ニ話合ノ上已ニ諒解濟ミノ趣ナルニ付併セテ御了承相成度、此段回答旁本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候。

敬具。

昭和十年十一月八日

日本帝國特命全權大使 有吉 明

國民政府外交部長 汪兆銘殿

昭和10年11月23日 在南京須磨總領事より
 広田外務大臣宛

日本側による塘沽停戦協定区域沿岸三海里内
 への税関武装監視船進入禁止の結果華北一帯
 に密輸品充滿の旨外交部抗議について

機密第八二六號

(12月9日接受)

昭和十年十一月二十三日

在南京

總領事 須磨 彌吉郎(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年十一月二十三日附機密第四四八號有吉大使宛公信
 寫送付

件 名

海關監視船武装解除ニ對スル外交部來翰轉達ノ件

機密第四四八號

昭和十年十一月二十三日

在南京

總領事 須磨 彌吉郎

密運搬ヲ爲シ居レルカ此種情況ハ每次北寧列車中ヨリ目撃
 セラレ内外ノ識者ハ等シク慨歎シ居レリ而モ日本領事ハ税
 關側ノ取締協助要請ヲ今日迄一向實行セサリシ爲密輸貨物
 ハ華北ニ充滿シ日鮮人ノ密輸風潮ハ漸次各省ニ蔓延スルニ
 至リ關稅收入ノ損失莫大ナル旨ノ報告ニ接シ右ニ對シ處置
 方考究中ナル矢先貴大使ヨリ外第三二號ヲ以テ税關武装監
 視船ノ停戰區域ノ領海内進入ヲ禁止スルハ停戰協定ニ基ク
 當然ノ要求ナル旨御申越アリタルハ寔ニ意外トスルトコロ
 ナリ査スルニ塘沽協定ニハ何等武装船舶禁止ノ條文ナク蓋
 シ海關巡邏船ノ武器使用ハ絕對ニ該協定ニ制限セラルルモ
 ノニ非ス且所謂停戰區域ナルモノモ亦單ニ陸上ニ限ラレ解
 釋ノ如何ニ拘ラス領海ヲ同區域内ニ包含セシムルコト能ハ
 ス況ンヤ巡邏船カ武器ヲ搭載スルハ惟密輸ヲ防止シ税關收
 入ヲ安固ナラシメントスル目的ニシテ正規軍隊ト其性質ヲ
 異ニシ居ルヲ以テ何等干涉ヲ受クヘキモノニアラス而モ日
 本軍當局ハ全ク協定ヲ曲解シ停戰區域ニ藉口シテ再三無理
 要求ヲ提出シ遂ニ水陸ニ於ケル税關ノ密輸取締工作ヲ完全
 ニ失效セシメタリ右ハ密輸者ヲ不法ニ庇護シ其犯罪行爲ヲ

在中華民國

特命全權大使 有吉 明殿

海關監視船武装解除ニ對スル外交部來翰轉達ノ件

本件ニ關シ汪外交部長ヨリ貴大使宛本月十九日附公文ヲ以
 テ別紙^{（別紙）}ノ通申越シタルニ付右茲ニ轉達ス(譯文添附)

(別紙)

以書翰致啓上候陳者今般總稅務司ヨリ秦皇島日本駐屯軍當
 局ハ最近更ニ同地海關稅務司ニ對シ(一)稅關吏ハ日本軍駐屯
 地ニ於テハ誤解ノ發生ヲ避クル爲單ニ自衛用トシテ棍棒ヲ
 携帯シ得ルモ武器ヲ携帯スルコトヲ得ス(二)停戰區域領海内
 ノ密輸取締ハ塘沽協定ニ規定セラレタル水上警察船二隻之
 ヲ擔當スヘシ但シ必要ノ場合ニ於テハ何等武器ヲ搭載セサ
 ル小型稅關監視船一隻若ハ二隻ニ限り停戰區域沿海ヲ巡邏
 シ密輸取締ニ從事スルコトヲ許容スヘク右監視船ハ隨時日
 本軍當局ノ檢査ニ應スヘシトノ二項ノ要求ヲ提出シタル爲
 目下密輸取締ヲ執行スルニ法ナク爲ニ密輸入者激増シ毎日
 千名乃至三千名大部隊ヲナシ武器携帯ノ朝鮮人之ヲ護衛シ
 何等憚ル所ナク鐵道ニ沿ヒ秦皇島ニ向ケ大規模ナル計劃的

獎勵スルト何等異ルトコロナシ本部ハ貴大使カ妥當ナル措
 置ヲ執ラレ同地ノ狀況ヲ漸次改善セシムルモノト期待シ居
 タルニ意外ニモ協定ニ基クモノナル旨御來照ニ接シタルハ
 甚タ遺憾トスルトコロナリ目下華北一帯ハ密賣者横行シ密
 輸貨物充滿シ居ル爲内外ノ正當商人ハ孰レモ打擊ヲ蒙レル
 カ右ハ天津日本商工會議所カ極力反對シ居ルニ見ルモ證明
 セラルル如ク其ノ有害ナルハ明カナリ右行爲ハ海關行政ヲ
 破壊シ稅收ニ影響スルノミナラス主權ノ侵害ナレハ支那政
 府ハ斷シテ容認シ難キヲ以テ茲ニ再應抗議ヲ提出スル次第
 ナルニ付迅速且有效適切ナル辦法ヲ以テ切實ニ前記行爲ヲ
 取締リ同地稅關ノ密輸取締ヲシテ常態ニ回復セシメラレ度
 ク密輸力之ニ依リ根絶セハ日支兩國相互ノ利益ヲ深ムル次
 第二有之候條右様御取計相成り度尙何分ノ儀御回答相煩度
 此段照會得貴意候

敬具

編 注 別紙は訳文のみ採録。